

<Cache-PAPA 賞グランプリ賞品『絵本』のご紹介>～パパはどんどん絵本を読もう！！～

パパに絵本を読んで欲しいということもあり、「パパ目線」で選ばせていただいたのが下記2冊です。『だるまさんが』は、とにかく擬音が多く、短い文が何度も続くので、パパには読みやすいです。『だいすき、パパ！』は、「パパといっしょ」というテーマにあっていると思い、パパをもっと好きになって欲しいという願い(僕自身の願いでもあります(笑))もこめて、選ばせていただきました。

僕は、絵本を読むのに「読み方」は無いと思っています。途中でアドリブを入れてもいいし、ストーリーを飛ばしちゃってもいい。とにかく「楽しければオッケー」。「絵本を読む入り口」を広く持っておくと、絵本を読むことが楽しくなります。

自分が楽しくないと、子どもにも楽しさは伝わりません。まずは「自分が楽しむこと」。「子どもが喜びそうな絵本」でなくて「自分が読んで楽しいと思える絵本」という目線で、絵本選びをしてもいいと思います。

行かれたことのないパパは是非、本屋さんの絵本コーナーへ行って見て下さい。最初はママたちばかりで恥ずかしいかもしれませんが、慣れると楽しいですよ(笑)。月に1冊でも、パパが絵本を選んで買う機会を作ってみてはいかがでしょうか。



タイトル:「だるまさんが」 作・絵: かがくい ひろし 出版社: ブロンズ新社

(内容)「だるまさんが・・・」の次に続く言葉は??期待しますよね。良い意味で裏切られる、読んでいても、とても楽しい絵本です。ストーリーが特にあるわけではありませんが、親子で見て読んで笑える作品です。



タイトル:「だいすき、パパ!」 作: マーガレット・ワイルド 絵: スティーブン・マイケル・キング 訳: さんぺりつこ

出版社: 主婦の友社 (内容)パパが大好きなこぶた。ある日、おふざけの度がすぎて、パパに叱られます。パパはほんとうにわたしのこと好きなのかな? ちょっぴり心配になったこぶたは、農場のみんなに、そんなことをきいてまわります。果たして、こぶたは答えを見つけられるのでしょうか? パパと子どもの強い絆をやさしい絵であたたかく描いた、心がほんわかする絵本。親子で読みたい一冊です。

第6回パパのしゃべり場×バルーンアート コラボ企画実現!! Cache-PAPA忘年会も同日実施!

2010年12月11日(土)に6回目のパパのしゃべり場が行われました。

この日は、バルーンアートとのコラボ企画。

講師はバルーンアートのプロで、多摩市のバルーン装飾の会社「かぜのふね」代表の石井顕さん。まさに「匠の技」で、次々とバルーンをアートにしていきます。今回は「犬」「剣」を作りました。初心者向けということもあり、手取り足取り、丁寧に教えていただきました。バルーンアートは3部構成。自分の出番が終わったら、パパのしゃべり場に戻ります。



1部、2部と終わり、3部には、みんなでクリスマスツリーの製作お手伝い。風船で素敵なクリスマスツリーが出来上がりました。しゃべり場はというと・・・今回はイベントに時間を割いたので、しゃべり場はそこまで時間がとれず。冬は子どもの病気も流行するので、いろいろな病気について、そして、親子で行ける施設についての話が出たり、情報交換を積極的に行いました。バルーンアートは、パパが身につけるにはとっても良い「特技」になると思います。子どもも喜びますし、バルーンと空気入れがあれば手軽に出来ます(もちろん「技術」がないと出来ませんが・・・(笑))。パパ達の満足度も高く、今年も是非お願いしたいです。このような機会をいただいた CacheCache の皆様、石井先生、撮影の金子パパ (Cache-PAPA の会)、ありがとうございました。そして、その日の夜は、Cache-PAPA の忘年会です。Cache-PAPA の会が2010年7月からスタートしてから約5ヶ月。パパ達の地域のつながりに一歩を踏み出し、少なからず、ここまで頑張って運営してこられたのも、かかわってくれたパパ達のおかげに他なりません。大感謝です!! お酒を飲み交わしながら、この5ヶ月のことを思い出して、感極まるどころがありました。「人との出逢いに感謝」そんな言葉がふさわしい、2010年のCache-PAPAの会だったと思います。僕たちの「ホーム」が改装中のため、別の会場となりましたが、大盛り上がりの忘年会となりました。2011年もヨロシク!!

パパたちが「つながる」シリーズ①西八王子のイクメンたち～



2010年12月18日(土)に、JR西八王子駅近くにある八王子市親子つどいの広場西八王子「さんさんひろば」にて、「パパのしゃべり場」がスタートするということで、そのお手伝いにCache-PAPAの会代表 田所が行って来ました。初めてにもかかわらず、8名のパパの参加がありました！中には、お昼から仕事があり、スーツで来たパパも！驚きを通り越して、感動です！！内容は、自己紹介～育児度チェック&育児用語当てゲーム～情報交換と続き、とても盛り上がりました。「みんな育児のことちゃんと考えてるな～。Cache-PAPA 負けてられないな～！」という印象でした

(笑)。今回、西八王子のパパ達の話聞いて改めて感じたのは、どんな地域でも、こういったパパが集まれる場所や機会が必要とされていること、そして、仕事以外でパパ同士の地域のつながりを欲している人が多いこと。地域を越えたパパ達のつながりを発展させるためにも、今後、Cache-PAPAと西八王子でも、パパ同士の交流をどんどん深めていきたいと思えます。



2010年12月21日(火)CacheCacheにて、午前11時～クリスマス会が行われました。なんと総勢57組！！もの親子がクリスマス会に集まりました。いうまでもなく、すごい熱気で、笑い声や泣き声(たまに叫び声(笑))が入り混じった、にぎやかな会となりました。まず、生の演奏から始まります。おなじみのクリスマスソングやアニメの音楽も満載で、子どもも大人も楽しめる内容です。生の音を聞くのは、子どもにとっても大変良いようで、フルーツなどの美しい音色に耳をかたむけていました。ん～、うっとり。

そして、いよいよ「Cache-PAPA サンタ」の登場です！！「サンタさーん！」の熱い呼びかけに颯爽と現れたサンタ。袋いっぱいクリスマスプレゼントを詰めての登場です。バルーンアート講習(前述)で磨きかけたパフォーマンス(右写真)により、クリスマスプレゼントの『風船のプードル』(左写真)を完成！そしてサンタは、



子ども達全員にプレゼントを渡し、汗だくで(笑)、子供達との別れを惜しみ、自国フィンランドに帰るのでした。サンタはいつもプレゼントをあげる役。だけど、サンタにとっては、子ども達の喜ぶ顔が何よりの「クリスマスプレゼント」。クリスマスはパパの出番！それも「パパの特権」です。おおいに楽しみましょう！！暑い中頑張った下浜パパ(Cache-PAPAの会)、当日に素敵



な写真の数々を撮影してくれた金子パパ(Cache-PAPAの会)、バルーン製作とご教授をいただいた石井顕先生(かげのふね代表)、CacheCacheスタッフの皆さん、本当にお疲れさまでした&ありがとうございました！

「パパと息子の大冒険！」

Cache-PAPAの会：岡田 秀生パパ お子さん：直輝（なおき）君（1歳1ヶ月）

「行ってきま〜す！」 午後4時半ママは嬉しそうに、そして少し不安そうな笑顔で元気に出かけて行きました。今夜ママは実家埼玉に用事があり1泊する為、明日のお昼まで帰ってこないのです。2010年11月27日、カシュパパの会「パパのしゃべり場」&バルーンアート講座に参加した日のお話です。今夜は「初めてのおつかい」ならぬ息子と僕の初めてのお留守番なのです。今までママの美容院の時間やお買い物の数時間くらいならお留守番の経験はありましたが、さすがに一晩息子と2人きりで過ごした経験はありませんでした。

「行ってらっしゃ〜い！」 ママを見送る時すでに不安がいっぱいで泣きそうでしたが、必死に笑顔で見送りました。そして2日間、パパと息子の冒険が始まったのです。

ミルクにオムツ替え、お風呂に寝かしつけなど、生まれて1年以上になるのもう慣れたつもりでいました。ママは心配だったのでしょうか、ママ特製息子のお世話マニュアルを書いておいてくれました。マニュアルなんてなくても楽勝！って気楽に思っていました。ママに勇姿を見せたくて、また今後の育児の参考になるかも？と全てビデオカメラに録画する事にしました。マニュアルを参考にしながらまずは夕飯の離乳食と僕の夕飯作りです。

やはりママのように手際良く準備はできません。離乳食をあげた後は息子を飽きさせないように「いないいないばあ」の歌を歌ったり声マネをしたりして、皆さんにはとてもお見せできない異様とも言えるハイテンション（笑）当然ですが自分の事など手につきません。気がつけばもうお風呂の時間です。パジャマやオムツの準備をしてお風呂タイムに突入、出た後も湯冷めをさせてはいけないと必死でした。息子に風邪をひかせないようにバタバタと終わらせた時、自分が何も着ていない事に驚きました。人間必死だと寒さって感じないものなのですね（笑）ホッと一息ついて自分の体を洗ってない事に気がきました。

息子をお風呂に入れた事は何度もありましたが、いつもママとの連携プレーだったからできていたのだとこの時に知りました。自分の体は寝かしつけをしてからゆっくり洗うつもりでしたが、息子と共に朝まで爆睡でした。カシュパパフォトコンテストグランプリの「寝かしつけ...られ」を身を持って体験したのでした（笑）

この夜はカシュパパの忘年会だったので、参加出来なかった僕を心配して元気づけようとパパ達が連絡をくれていたのですが、翌朝7時息子に起こされるまで全く気が付きませんでした。カシュパパの皆さんありがとう&ごめんなさい。

...という訳で無事に？初日を過ごして朝食に取りかかりました。

昨日より落ち着いてやろうと思っていたのですが、朝食の後は洗濯、お風呂掃除、食器洗いなど相変わらずテンヤワンヤで進んで行きました。ふと気がつくともうお昼、もうすぐママが帰ってくるとメールがありました。こんなに嬉しいママからのメールは久しぶりです（涙）

「ただいま〜」 ママが帰ってきました。余裕の笑顔で迎えたかったのですが、ママの顔を見たら安心して泣きそうになりました。百聞は一見にしかず、何気なく育児をこなしているママ達は凄いなと思いました。家事と育児の両立とはこれ程大変な事だったのだと、ママ達の偉大さが身に染みた経験でした。そしてママ達がどれほどストレスを抱えながら育児をしていたのかを思い知りました。核家族化が進みお祖父さんやお祖母さんが同居しない家庭が増えましたね。また幼児虐待や育児放棄「ネグレクト」や産後うつによる自殺などの悲しいニュースが後を断ちません。今回の出来事を経験して思ったのは、ファミリーで育児をこなすファミ育が大切であると言う事です。育児は夫婦が力を合わせなければ成立しないと思うのです。今年「イクメン」という言葉が流行語大賞にノミネートされましたね。「イクメン」とは子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性或いは将来そんな人生を送ろうと考えている男性の事です。厚生労働省も昨年6月に「イクメンプロジェクト」をスタートしました。カシュカシュに行っていたママからの勧めで、僕も昨年7月に発足したイクメングループ「カシュパパの会」に参加するようになって猛勉強中です。これからもカシュパパの皆と力を合わせて、子供達が安心して育つ暖かい地域作りを目指して頑張りたいと思います。

「パパのしゃべり場に参加して」

Cache-PAPA の会： 小國 薫^{パパ} お子さん：広夢（ひろむ）君（1歳1ヶ月）

僕が「パパのしゃべり場」に参加しようと思ったのは、子育てに関する情報を収集したいと思ったことと、子育てに直面している色々なパパたちと知り合いになりたいと思ったからである。

子育てに関する情報はインターネットで簡単に得ることができるが、実際に子育てに直面しているパパたちと対面して得られる生の声はとても貴重なものだと思っていたし、歳をとるにつれて人と出逢う機会が減ってきたことを実感していたので、何かきっかけがあれば自分の「友だちの輪」を広げたいと思っていた。

そんな矢先に以前から交友があった田所氏から「パパのしゃべり場」を始めることを聞いたので、迷うことなく参加することにしたのである。

やや緊張しながら、息子と2人で7月24日開催の第1回目「パパのしゃべり場」へ参加した。確かそれが僕の CacheCache デビューだったと記憶している。どちらかといえば人の集団へ自ら進んでいくことが得意でない僕にとって、話ができるのは田所氏しかいない状況であったが、パパ同士でコミュニケーションをとれるような企画を準備してくれていたおかげで、何人かのパパと交流して情報交換することができた。

月に1回の開催ではあるが、出来るだけその後の「しゃべり場」にも足を運ぶようにした。「しゃべり場」が終わったその日の夜にはパパたちの飲み会が催された日もあり、パパたちとの仲をより深めることができた。その結果、「しゃべり場」へ参加するにつれてより多くの子育てに関する情報を得られるようになり、「パパ友」も増えてきているので、「しゃべり場」に参加する当初の目的は達成しつつあることを実感できるようになった。つまり、「しゃべり場」は僕にとってとても有意義な場になってくれたのである。

しかしある日から、息子と2人で「しゃべり場」へ参加することで得られる効果はそれだけではなく、以下に述べる2つの効果もあるように思えてきた。

1つ目は、「息子に自宅と違う環境を与えることは、息子にとってよい結果をもたらすであろう」という点である。CacheCache へ行って自宅にはないたくさんのおもちゃで遊んだり、自宅にはないたくさん絵本を目の当たりにすることで、息子の様々な感性が刺激されると思うからであり、CacheCache に来ている親以外の成人や息子とほぼ同い年の子たちと触れ合うことで、小さいながらも「社会」というものを理解して学んでいくことが可能であると思うからである。

そして2つ目は、短時間であるかもしれないが、「妻から子育てを解放してあげられる」という点である。実はこのことが子育てという観点では大変重要なことであるということ「しゃべり場」へ参加するようになってから学んだ。

確かに1週間のうちの5日間は、僕が出勤して帰宅するまでは妻が息子の世話をしてくれている。本当にご苦労さまという思いでいっぱいである。

そんな妻からほんの数時間でも子育てを解放してあげることは、ほぼ毎日子育てに追われている妻にとってよい気分転換になるだろうしストレス発散にもつながる。実際、僕が息子と2人で「しゃべり場」へ参加しているとき、妻は友人とおしゃべりを楽しんだり映画を観に行ったりして、「自分の時間」を楽しんでいるようである。

このように妻に息抜きをさせてあげることでよりよい子育てができるようになり、それが息子にとっても僕にとってもよい結果をもたらすことになると思うし、日常においていまのところはそうになっていると思う。「パパのしゃべり場」へ参加するようになってから5ヶ月が経とうとしているが、僕は今後も「しゃべり場」へ参加し続けようと思っている。それはやはり僕自身が「しゃべり場」へ参加することが楽しいと感じ、何よりそれが息子と妻のためにもなっていると感じているからだと思う。実際のところ、息子は CacheCache ではとても楽しそうに過ごしている（お昼寝しているときは別として）し、妻も僕が毎月「しゃべり場」へ参加することを期待しているようである。

息子が誕生してから1年と1ヶ月が経過しているが、僕は父親としてはまだまだ未熟であると思っている。それゆえに、今後も継続して「しゃべり場」へ参加することで少しでもよい「イクメン」に、そして少しでもよい「父親」に成長できたらいいと思う。さらにその延長で、僕の「友だちの輪」の幅と大きさも成長させることができたらなおいいと思う。

「カシュパパの会に参加して」

Cache-PAPA の会：川口 隆治パパ お子さん：大翔（はると）君（1歳2ヶ月）

2010年は、私自身たくさんの変化と出会いがありました。2009年6月に大阪より仕事の都合で堀之内に引越してきた時は、初めての東京住まいでまわりに知り合いがいないのはもちろん、大翔も1歳になっておらず、ママも同様に知り合いのない中での子育て奮闘でした。そうするうちに、同じアパートの家族からママがカシュカシュの存在を教えてもらい、日中に息子を連れて遊びに行ったのがカシュカシュとの出会いの始まりでした。大翔も元気一杯遊びまわり、ママ友がすぐに出来たようで、今までは、離れた大阪の実家に子育てに関する悩みや相談をしていたのが、自分と同じように子供を持ち現在進行形で子育てを頑張っているママと直接相談できるコミュニティが自然と出来あがりました。

そんなママから「カシュカシュで「パパのしゃべり場」が始まるから行ってみたら（というより行って欲しいんだけど）」との誘いを受け、私も初めてカシュカシュにお邪魔することになったのです。きっかけは、ママが色々な家族の情報をママ友から聞くにつれて、私の子育てを「レベルアップ」したかったのが本音ですが、今になって聞いてみると「もっと一緒に子育てのことを考えて欲しいと思って」「となりのパパがどうやっているか見てきたらいいと思って」「ママ達がどうやっているかも聞いてきて欲しい」等ママも一生懸命考えてのことだったようです。

月1回のしゃべり場はまずパパの自己採点から始まります。自分が採点するパパは何点か、ママが採点するパパは何点か。点数よりも子育てを振り返ったり、みんなの意見を聞いたり、新しいことを知ったり、家族を含めてそれを話あうことに意味があります。参加しているイクメンパパは皆、お仕事の状況やお子さんの状況に応じて自分の子育てへの取組の現状を正直に話しているのです、大変盛り上がります。私も最初はカシュカシュに行くこと自体で、1歩パパとしては頑張ったのかな、程度の考えだったのが、パパ友が出来ると子供に対する見方がずいぶんと変わり、わが子を可愛いと思う親はみな一緒に、「わが子のために」に加えて「子供のために」という考えも街に出て子供を見ると思うようになりました。

平日は遅い時間に帰ってきており、土日もママから見るとまだまだ子育て参加率は低い私ですが、カシュパパの会への参加を重ねることで確実に、ママとのコミュニケーションも向上し更に子供のことを考えるようになりました。

この1年、カシュカシュ、カシュパパとの出会いに本当に感謝しています。また私をそこへ連れていったママに感謝しています。皆さんも普段のお知り合いに加えて、地域の子育て友達の輪にカシュカシュ、カシュパパを通して1つでも役に立つものを得て行って欲しいなと思います。

2011年も皆様のご家族が健康で元気一杯幸せでありますように。

🍷 今月の子育て格言 🍷 『親になること』

小学生の時、国語の授業で「親という漢字は、『木に立って見る』と書くんだよ」と何度も先生に教えられた記憶があります。

自分が親になり、育児をするようになって、改めて、その記憶が鮮明に思い起こされました。

育児はまさに「親になること」だと思います。親は「木に立って見ている」だけです。子どもが自分の力で出来るようになるためにサポートし、その可能性を広げてあげるのが、親の役割です。ですので、命の危険が及ぶこと以外は、経験させてあげることが大事なのだと思います。経験からしか人は学びません。子どもも同じです。自分で靴を履く、食べこぼしたものを自分で拭くなど、「出来ると信じて待つ」ことこそが、本当の育児なのではないでしょうか。「出来る出来ないという結果」ではなくて、「経験させること」が大事です。急いでいる時に、服を着替えるまで待つことは大変だし、どんなことでも、「自分でやったほうが早い」と思う時はあります。それは僕も一緒です。それでも、長い目で見て、子どもの未来を想像して育児をすることが、「親になること」なのではないかと思えます。

父性は、責任を教えるために経験させるという意識が強く働くそうです。これも「パパの役割」のひとつですね。